

平成28年度 米子南高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

鳥取県立米子南高校は、昭和2年創立の県立養蚕学校からの伝統のもと、「蜂章賦の精神を尊び、社会人として必要な規範意識、人間関係力を身につけ、一般教養と専門的スキルをもって、地域社会の発展に寄与できる人材の育成」を目指し、商業学科と家庭学科を併設する専門高校として、特色ある教育活動を推進している。

授業や部活動、学校行事や進路指導を通じた日々の関わりの中で、教職員と生徒が相互に信頼感を育んでいることがうかがわれ、学校は穏やかで明るい雰囲気にも包まれている。多様な資格取得を目指し、そのプロセスや結果を進路決定にいかしながら、活発な部活動、地域と連携した商品開発や環境教育、国際交流の推進などを展開し、着実な成果を上げている。

今後は、その良さを大切にしながら、予測不可能な社会を生き抜き、地域社会の発展に寄与する人材の育成に向け、さらに高い目標を掲げて教育活動の充実を図っていくことを望みたい。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 生徒に対する細やかな観察と迅速で適切な対応、日常的なモラル啓発がなされており、生徒たちは落ち着いて真面目な姿勢で勉強や部活動に取り組んでいる。今後もこの温かく規律ある学校風土の維持を継続・発展していただきたい。
- ② 地域連携商品開発や外部講師による指導など、専門性をいかして地域と連携した特色ある教育活動が行われている。特に調理コースの意欲的な取組は、生徒の主体的学びを引き出している。学校全体の目標意識の向上につなげていただきたい。
- ③ 多様な資格取得を推進し、進路指導にいかす教育活動が成果を上げている。卒業生に対する地元企業からの評価も高い。今後は、地元産業との連携の強化、地域から信頼される人材育成を継続・発展させるとともに、より高い目標に向かって進路の実現を図るための学力向上、そのための授業改革へとつながる体制づくりを期待する。
- ④ 支援を必要とする個々の生徒に対して、施設設備面・教育面ともに柔軟で丁寧な対応が行われ、一人ひとりが大切にされた学習環境を創出している。
- ⑤ 環境への取組（TEAS）が定着し、成果を上げている。今後は数値目標だけを求めるのではなく、「山の資源」「中海環境保全」など、高い次元の取組を目指していただきたい。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 学校ビジョンや重点目標への教職員への徹底度が低く、個々の教職員の取組が学校全体としての動きになっていない。将来的な学校のあり方や方向性についての共有化や議論、より高い目標を求めて改善・向上を目指す風土の醸成、そのための組織の整備が必要である。
- ② 授業については、現状に満足することなく、主体的に学ぶ意欲の育成と基礎学力の向上につながるよう、目指す授業の姿を具体的に共有することから始め、テーマを定めた研修や研究授業の実施、アンケートの改善など、組織的な改革に取り組む必要がある。
- ③ 時間外勤務が多く、教職員の業務負担感は大きい。教材研究や生徒と向き合う時間の確保のためにも、業務の精選と効率化、多忙感の軽減への体制的な方策が望まれる。
- ④ 手話については、学校としての目的や理念、到達目標を定め、手法の工夫を用いて、計画的な取組を策定する必要がある。
- ⑤ 本校舎から一般道路を横断し、体育館へ移動する際、引き続き安全の確保と対応策を講じていただきたい。